

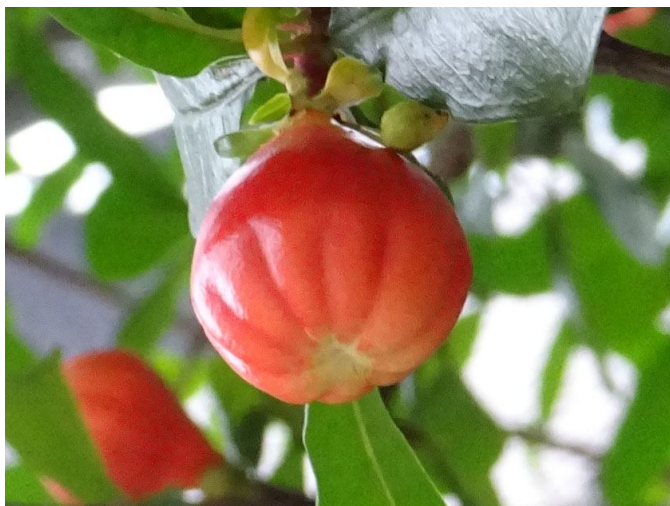
「ザクロの花(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

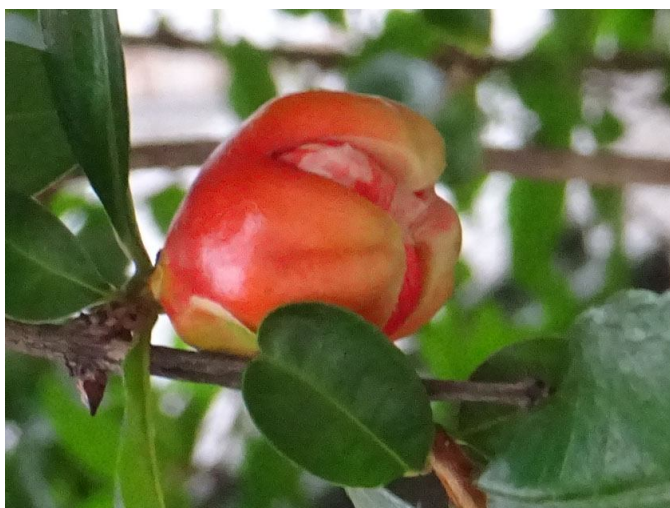
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小学校の玄関にあるザクロは、今の時期、さまざまな状態の花が見られる。つぼみ、開花始め、開花したもの、受粉が終わった花などである。教材としては特別な植物だが、その成長過程を観察するのは面白い。



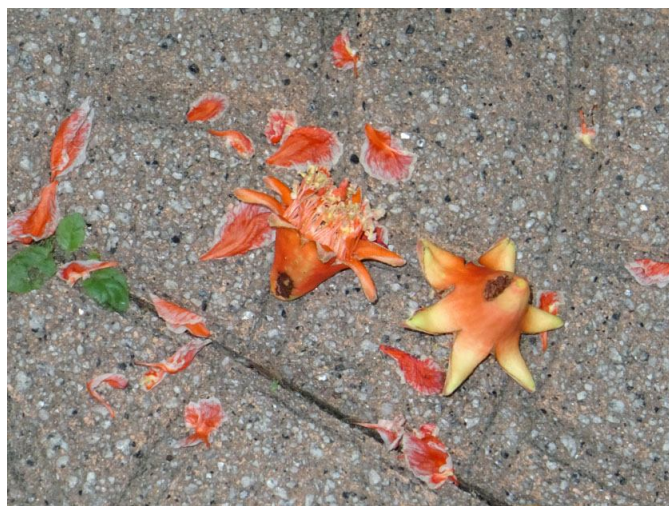
これが「ザクロの花のつぼみ」。立体感があって、まるでイチジクの果実のように見える。子どもたちに見せたら、「気球を逆さまにしたみたいだ」と言っていた。黙っていたら、花のつぼみには見えず、これが何かの樹木の果実に見えるだろう。



これが数日たつと、果皮の何箇所かが裂けて、中の花弁が見えてくる。ザクロは果実が熟す時にも同じような裂けかたをする。この状態も、何も説明しなければ、花のつぼみには見えず、「小さなザクロの実」だと思うだろう。



咲き始めると速い。朝咲き始めた花は、昼過ぎにはすっかり開花している。しかし八重咲きのザクロの花は、花弁が多すぎて、雄しべも雌しべも全く見えない。



幸い(というより不幸にも)ザクロの花は、熟す前に落花する確率が高い。いくつか拾って、実験室で観察してみることにした。



つぼみは6~9裂し、星型に広がっている。ツチグリというキノコに似ている。雄しべのようなものが多数見える。内部を見るには、縦に切る必要がある。